

平成20年10月10日

ヘルパーステーションだいたう ケアレポート No16

ヘルパーステーションだいたうのケアレポートNo16をお届けします。

今回は私どもの事業所（介護保険）をご利用の方々の、住まいやご家族の様子を調べてみました。

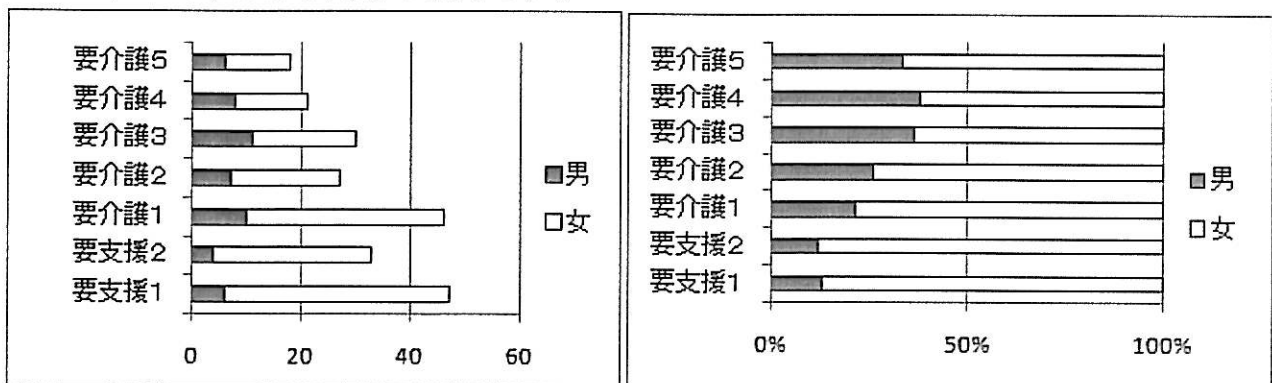
<はじめに>

今回の検討項目は、独居か同居か、一戸建てか集合住宅か、世話付きかといった項目です。現在ヘルパーステーションだいたうをご利用の方の内訳は以下の通りです。

表-1

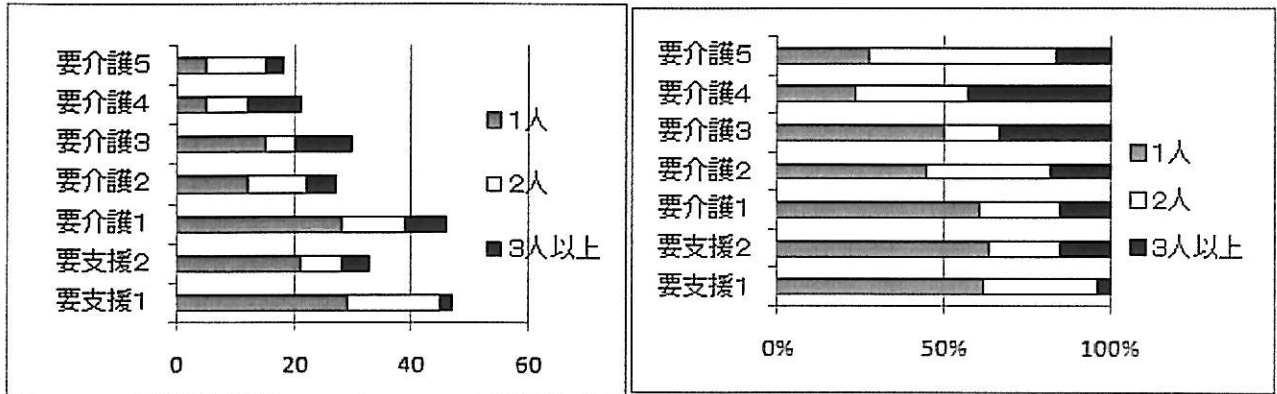
	男	女	1人	2人	3人>	一戸建て	集合住宅	世話付き住宅
要支援1	6	41	29	16	2	33	14	0
要支援2	4	29	21	7	5	20	13	0
要介護1	10	36	28	11	7	32	13	1
要介護2	7	20	12	10	5	20	7	0
要介護3	11	19	15	5	10	23	6	1
要介護4	8	13	5	7	9	16	5	0
要介護5	6	12	5	10	3	12	4	2
合計	52	170	115	66	41	156	62	4

1. 下図は介護度別の男女別の利用者数です。姫路市全体の利用者の男女比が27:73ですので、ほぼ、同様の傾向です。



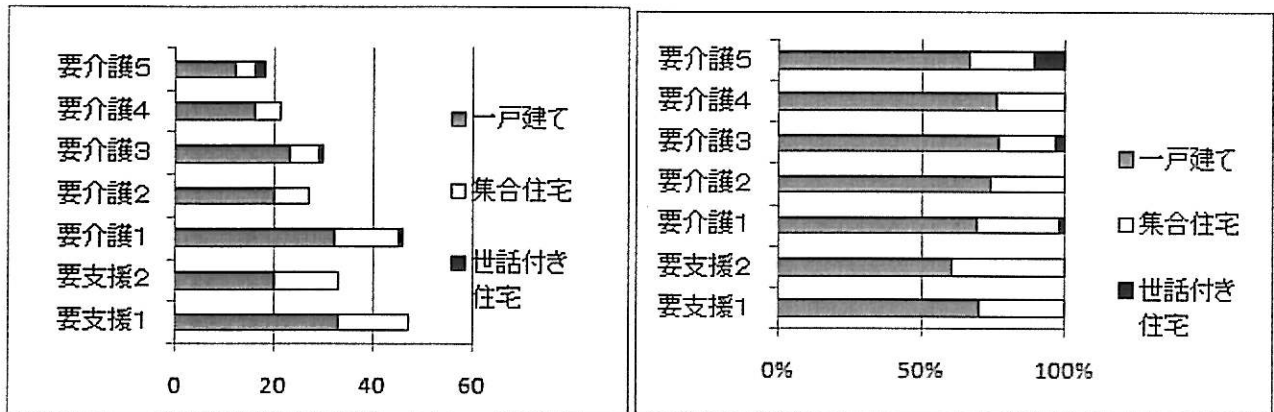
軽度者については女性の利用の比率が高いのは（要支援；男女比1：7）、軽度者の訪問介護の利用が家事中心で、それを代行していることを表しています。

2. 下図は世帯の構成人数を示しています。



要介護4、5の方は39名で全体の18%です。姫路市全体の訪問介護では11%ですので私どものステーションは重度化しています。39名のうち一人暮らしが10名です。ご家族が市内に住んでいるとはいえ、介護度が重くなると家族の介護力が必要となってくる中で、寝たきりやそれに近い形で一人で生活されている方が10名頑張っておられます。

3. 次に住居の状況を示します。



身の回りの世話をしてもらえらるスタッフがいるケアハウスのようなところに住んでおられる方は、4名だけでした。そのようなところは専門的なケアは外部のサービスを利用されます。また、介護度と住処は関連しないようです。

<まとめ>

施設入所のハードルがどんどん高くなって行く状況で、それならば住み慣れた家で最期まで住み続けようとする方が増えてきています。また、介護だけでなく医療的サービスを必要とされる方も在宅療養が増えてきています。

脳梗塞による麻痺、難病や末期がん、認知症や加齢、様々に生活に障害をなす要因が絡まりながら、それらを抱えて在宅生活を継続させる状況が大きくなってきています。

生活の質を維持・向上させ、たとえ寝たきりでも住み慣れた家で生活し続けたいとの思いは自然ですが、それを実現させるための、医療を介護の連携や在宅と入院等の連携の必要性がどんどん高まっています。私どものステーションのスタッフ一同思いも新たにケアを提供して行きます。